

# 草木染

## 教科・場面

理科社会

## 授業・実践のねらい

- ・身近なもので布を染めることができることを経験する。
- ・液の酸性・アルカリ性の違いをリトマス試験紙や染めの違いで確認する。
- ・絞り染めや板染めを体験し、他の染料や液性処理もやってみたい気持ちを育む。

## 対象の児童・生徒

高等部C班

- ・酸性・中性・アルカリ性の学習を12月に行っている。リトマス試験紙を用いた実験で、クエン酸が酸性、重曹がアルカリ性であることを検証済みであり、問われると正しく答えられる。
- ・3年生は昨年度も草木染を行い、アカネ染めをしたことがある。

## 教材・教具

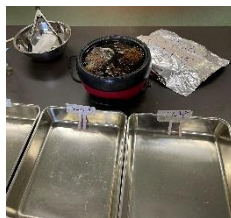
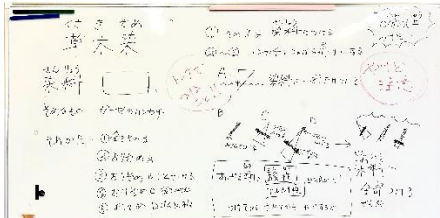
- ・校内に生えているクリのイガ
- ・電気グリル鍋・トング・ステンレストレー
- ・リトマス試験紙・重曹・クエン酸
- ・ガーゼハンカチまたは綿100%の布
- ・輪ゴム・アイスの棒または木製マドラー

## 工夫したところ

- ・電気グリルを使うことで、安全性が高まる。
- ・やけどには注意を払う。
- ・染色の後処理の液にリトマス紙を貼る。

## 授業展開・教材の使い方・実践の内容

- ・金属製バット2つにリトマス試験紙の青・赤を並べて貼り付けておく。それぞれにクエン酸の粉と重曹の粉をいれ生徒が水を入れてとかす。リトマス試験紙の色の変化から酸性とアルカリ性を確認してもらう。
- ・染め液は、事前に数時間煮出しておいて電気グリル鍋で再加熱する。やけどには注意。
- ・ガーゼのハンカチや綿の布を三角や四角の蛇腹折にし、アルミホイルに包んだ木の棒で、はさんだり直接輪ゴムで縛ったりして下準備をする。(染め抜きをしないのもあり)
- ・下準備が終わった生徒から順に染め液にトングを使って沈めていく。約10分。
- ・あらかじめ決めておいた染め後の処理(酸性かアルカリ性か)の液にトングで軽く絞ってからつける。
- ・粗熱が取れたら輪ゴムを切ってさらに処理液に全体をさらしてから、軽く絞って、水洗い→絞って陰干しする。
- ・乾いたら、アイロンをかけて染料の定着を促す。



## 授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・昨年度と異なり、学校内である材料を使ったことでより草木染への関心が高まったように感じられた。また、今年度は酸性・アルカリ性の学習を事前に設定しており、草木染への応用によって液性の違いに対する理解を深めることができた。栗染めの後、昨年度以前の作品を1年生に示すと、他の色でも染めてみたい!と学習への意欲・関心の高まりを見ることができた。